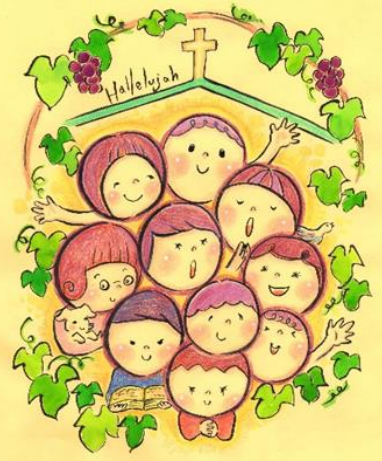


# さかわ通信

第214号 2024年3月24日 発行  
発行責任 酒匂キリスト教会 勝俣慶信  
〒256-0816 小田原市酒匂3-13-8  
TEL/FAX 0465-47-3282



私たちの教会は、神様の愛、イエス・キリストの救い、聖書のみことばに立つ正統的プロテスタント教会です

He is Risen

## イースターおめでとう

### ■ 礼拝

3月31日(日)午前11時～12時15分

聖書、讃美歌は教会でお貸しします。安心してお越しください。

### ■ イースターフェスティバル

焼きそば大会	12時45分～13時45分
エッグハンティング	13時45分～14時
マジックショー	14時～14時半



ゴスペルマジシャン RITO による  
楽しいマジックショーに是非お越し  
ください!



## 死で終わらない希望

今年のイースターは3月31日です。イースターは十字架で死なれたイエス・キリストの復活を記念する日です。死人がよみがえるとは、いったいどういうことでしょうか。聖書はどんな希望を語っているのでしょうか。今回は、一人の少女の死と復活の記事をご紹介します。

マルコの福音書5章35節～42節

イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒にいくのをお許しにならなかった。彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、中に入って、彼らにこう言われた。「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだのではありません。眠っているのです。」人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。

この記事はもっと前があるのですが、長さの関係で後半だけ載せました。ヤイロという神を信じ神に仕える会堂司の娘が病気で死にそうです。ヤイロはイエスのもとに飛んで行ってひれ伏し、助けてくださいと願います。イエスはすぐに出発しますが、家に着く前に娘が亡くなったと報告が届きます。

「なぜなんだ！」父ヤイロはうろたえます。その時イエスは「恐れなくて、ただ信じていなさい。」とヤイロを支えます。もし、死が終わりで永遠の別れなら、そこには絶望しかなく希望を見いだすことはできません。

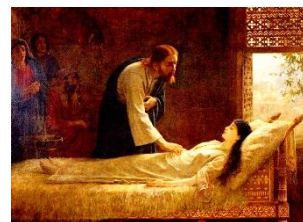
しかしイエスは「恐れなくて、ただ信じていなさい。」と言われる。これか言えるのは神さまだけです。イエスと神は一つです。

家に着くと葬式の準備が始まり、そこは悲しみで一杯です。しかしイエスは、「その子は死んだのではありません。眠っているのです。」と言われます。

聖書で「死ぬ」とは、神との関係が断絶した状

態を指します。神はいのちの源です。神と断絶していたら肉体的には生きていても、神の目には失われている。つまり死の中をさまようように生きています。ですから苦しみ、悩み、戦いが尽きることがありません。その意味で私たちは皆、神の目には死んだ状態にあると言えましょう。

でもそこにイエスが来てくださる。そして手をとって下さいます。それは、神と結び直されるしるしです。「娘よ、あなたに言う、起きなさい。」と手を延べてくださる！イエスを通し神と結ばれ娘は立ち上がります。これと同じことが私たちの身の上で起こります。すべての人が闇の中を生きています。イエスはそこに来てくださり、倒れた私を見だし、手をとって「〇〇よ、あなたに言う。起きなさい。」と、神のいのちを注ぎ込んで下さいます。この時、死から復活し、神の愛の中をイエスに手を結ばれながら生きていく新しい人生が始まります。



筆者も、高齢で寝たきりになった方を訪問することがあります。その時、「もう少しで桜が咲きますから頑張りましょう」と慰めたりする。でも、何か違うと思いつつ帰るのです。そして今日の聖書記事を通してハッとさせられたのです。お医者さんが手を尽くせるのは死の手前まで。でも、イエスを信じる人は、イエスが死からよみがえって今も生き、神の愛、いのち、力を注いでくださっていることを日々味わっています。つまり、イエスは今も生きておられると体験しています。ですから、死は終わりでも恐ろしいものでもなく、死の先のいのちと人生が、イエスを通して与えられるとはっきり語ることができるのです！それ以来筆者は、訪問し、「恐がることはありません。ただ信じていきましょう。イエスさまがしっかり手をとっていてくださいます。」とイエス御自身をお話します。すると、「感謝だね、感謝だね」と頷かれるのです。

死者の復活というと「あるはずがない」と一笑に付され勝ちです。でも、あるとしたらいかがでしょう。神は、神と断絶し死の支配の中に生きてしまっている私たちを、愛といのちの中にとりもどすためイエスを遣わしてくださいました。そして死の底に生きている私たち一人ひとりの手をとって立ち上がらせ、神の愛の内に復活させてくださいます。神は、そのひとり子をお与えになったほど、あなたを愛してくださっています。この神の愛を受け取るため、立ち上がらせていただきましょう。